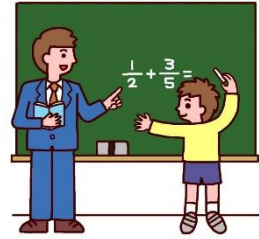




ふじみ

特別号



埼玉県学力・学習状況調査、全国学力・学習状況調査結果と考察

校長 嶋 澤 哲

児童の学力や学習状況を把握・分析し、児童への教育指導の充実と学習状況の改善に役立てるために、文部科学省と埼玉県による学力・学習状況調査が実施されました。遅くなりましたが、富士見小学校としての結果・考察がある程度まとまりましたので、保護者の皆様にお知らせいたします。

1 全国学力学習状況調査

○調査学年 小学校6年生・中学校3年生

○調査内容 国語・算数教科に関する調査（昨年度までは、知識を問うA問題と活用する力を問うB問題に分かれていましたが本年度からはABの分類はなくなりました。）

質問紙調査

○学力の結果

国語	全国	63.8
	埼玉県	64
	富士見小	60

算数	全国	66.6
	埼玉県	66
	富士見小	65

○質問紙調査からの考察

「将来の夢や目標を持っていますか。」という設問で「持っている」と答えた児童の割合が全国より高くなっています。学習への意欲付けとしてとても大切なことであるとともに、ぜひ、それを育む学校でありたいと考えています。ただ、地域との関連では全国平均よりもかなり意識が低い傾向がありました。今まで以上に地域と連携し児童一人一人に地域の一員であるという自覚を高めていきたいと感じました。

2 埼玉県学力学習状況調査

○実施学年 小学校4年生～中学校3年生

○調査の特徴 従来の「学習の内容がどのくらい身についているか」という視点に加えて「一人一人の学力がどれだけ伸びているか」という視点が加えられています。

表1-1 平均正答率による比較

国語	4年	5年	6年
埼玉県	56.1	52.3	62.2
富士見小	57.8	53.5	58.4

算数	4年	5年	6年
埼玉県	70.2	68.2	61.5
富士見小	73.7	68.0	58.9

表1-2 学力の伸びによる比較

5年 国語		4年	5年
埼玉県	学力レベル	6-C	6-B
	学力の伸び		1
5年 国語		4年	5年
富士見小	学力レベル	6-C	6-B
	学力の伸び		1

5年 算数		4年	5年
埼玉県	学力レベル	5-B	6-B
	学力の伸び		3
5年 算数		4年	5年
富士見小	学力レベル	5-B	6-B
	学力の伸び		3

6年国語		4年	5年	6年
埼玉県	学力レベル	6-C	6-A	7-B
	学力の伸び		2	2
富士見小	学力レベル	5-B	6-B	7-C
	学力の伸び		3	2

6年算数		4年	5年	6年
埼玉県	学力レベル	5-B	6-C	6-A
	学力の伸び		2	2
富士見小	学力レベル	5-C	5-B	6-A
	学力の伸び		1	4

○学力の結果からの考察

- ◇4年生・・・国語、算数とも県の平均を上回っています。特に算数は県平均を3.5ポイント上回っており、確実に学力が定着していることが伺われます。
 - ◇5年生・・・国語、算数とも県平均並みですが、昨年度は国語、算数とも県平均を下回っていましたので、確実に力は伸びていると考えられます。
 - ◇6年生・・・残念ながら国語・算数とも県平均を下回ってしまいましたが、国語・算数ともに平均との差は詰まっています。特に、算数は学力レベルでは県の倍の伸びを見せ、県に追いつきました。
- ※各学年とも算数では、県平均と同じか上回る学力レベルになっています。このことから本校で続けてきている算数科の校内研修の取組と少人数指導の成果が出ているのではないかと考えています。

○質問紙調査からの考察

この調査では質問紙による調査も行っています。その質問紙との関連についても一部紹介したいと思います。なお、質問紙調査では実施が4月当初のため、多くの設問が、1学年下の時の状況を答えるようになっています。

4年生・・・「勉強をしているときにやっていることが正しくできているかどうかを確かめる。」という設問に対して県平均より高い数値でした。問題を解いた後きちんと確かめる習慣がついているのだなと感じました。また、「学校の友達は自分のよいところを認めてくれましたか。」という設問でも県よりかなり高い数値となりました。これにより、学級に親和的な雰囲気があることが分かります。親和的な雰囲気の学級は学力の伸びが大きいという調査結果も出ています。「授業の始めには気が付かなかった疑問が授業の終わりに頭に浮かんできたことはありますか。」という設問の高く、子供たちが授業をとおして、新しい興味・関心を持つことができていることが伺われます。

5年生・・・「勉強するときは、最初に計画を立ててから始める。」という設問に「よく当てはまる」と回答した児童が県より多く、計画的に学習を進めようとする児童が多いことが分かりました。しかし、「先生や友達の発表をしっかりと聞き、自分の考えを伝えることができているか。」という設問では「よくできる」が少なく、本校の算数科の研究主題である伝え合うということが十分できていないという実態も浮かび上がってきました。

6年生・・・「学級での生活は楽しかったですか。」という設問に対して「楽しかった」と回答する児童が県よりも10%以上多く、学力向上にも寄与していると考えられます。また、「授業の予習や復習をしていますか。」という設問の回答も高く、児童が家庭でもよく学習している様子が伺われます。

全体として・・・1か月の読書量についての設問では5.6年生で県平均よりもかなり低い数値となりました。

11月の本校での読書月間の取組等をとおして児童へ啓発していきたいと思いますが、家庭でも声かけをしていただければと思います。

3 学力向上のために今後取り組んでいきたいこと

- ・考察にも記したように、現在の本校の校内研修で取り組んでいる内容、少人数指導の効果が出ていると考えられます。今後も研修の成果を継続するとともに、少人数指導のさらなる充実を図っていきます。
- ・家庭と連携して家庭学習や読書活動の推進・充実を図り、学ぶ習慣や学ぶ意欲の向上に努めていきます。
- ・新学習指導要領の趣旨に沿った授業を進めるため、児童が主体的に学習に取り組めるように授業改善を図っていきます。